

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500081		
法人名	特定非営利活動法人 熊毛清風会		
事業所名	グループホーム おかでら荘		
所在地	周南市大字樋口262番地1		
自己評価作成日	令和3年 5月 29日	評価結果市町受理日	令和3年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年7月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小学校と隣接していて、窓を開ければ元気な小學校生徒の声、鳥のさえずりが聞こえて来ます。又、近所に幼稚園、少し歩けば鳥帽子ヶ岳が一望出来る最高の環境です。第二の我が家として職員、他利用者様と共に笑顔で過ごせるような環境づくりと、地域との交流、参加に力を入れています。幼稚園児、小學校生徒との交流も多くあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者や管理者は、朝礼や施設内研修、各種委員会活動を通して職員の意見や要望を聞く機会を設けておられる他、人事考課制度を整備され、必要に応じて個人面談を行っておられ、職員の子育ての悩みや健康に関する相談にもおうじておられ、勤務体制の変更などと併せて、幅職員の意見や提案を反映されています。今年度は利用者の外出の機会が減っていることから、職員によるイベント起案を増やされ、様々なイベント企画を実施されています。手作りのワニワニパニック、ボール遊び、棒サッカー、輪投げ、バットゴルフ、銭太鼓、ドッジボール、旗揚げ・牛乳パックすくいなどのゲーム、プランターでの野菜づくり、花壇への花植え、干し柿などの保存食づくり、新聞紙のゴミ箱づくり、施設内での運動会やバレーボール、棒サッカー、ビンゴ、じゃんけん、早口言葉、缶積み大会、金魚すくい、誕生会、椎茸の菌打ちなど楽しみごとや活躍できる場面を増やしておられます。自己申請によって、年1回は外部研修に参加できるよう配慮され、老人福祉レクリエーション、福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程、感染症対応、技能実習責任者更新研修、認知症疾患医療センター合同研修会、介護報酬改定等に参加されています。施設内研修も毎月実施され、新型コロナウイルス、身体拘束、高齢者虐待、避難訓練、記録、排泄、外部研修の復命をされています。事業所には、各委員会(行事、研修、誕生日会、展示物、事業所だより、クラブ活動、介護技術向上、虐待・身体拘束0、レクリエーション技術向上、排泄関係)が設けられ、委員会活動を通して職員の資質の向上に努められ、働きながら学べるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義を毎新年度4月、施設内研修時に繰り返し実施。理念を玄関掲示板に掲示にて共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、毎年度4月の施設内研修で、理念の中にある「敬意、受容、笑顔、スキンシップ、馴染みの環境」について学習し、共有している。新型コロナウイルス感染症の影響が続いている現状の中、職員は、利用者の笑顔が常に見られることを意識して様々なイベントを企画するなど、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年の様な交流を規制中止した。テラスにて幼稚園児の慰問1度のみとなった。	自治会に加入している。コロナ禍で、自治会行事や地域の事業、事業所での地域との交流事業やボランティアの来訪の殆どを中止としているが、以前から続いている近隣の幼稚園児の来訪を受け入れ、事業所のテラスで交流している。昨年までは毎月配布していた地域向けの事業所だよりを、一年分まとめて自治会に回覧している。周辺や小学校への散歩時には、地域の人と挨拶を交わしている他、地域からカボスやゆずの差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年の様な交流を規制中止した。テラスにて幼稚園児の慰問1度のみとなった。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に外部評価の意義を説明し、自己評価は全職員対象に実施した。	代表者が内部研修で職員に評価の意義を説明し、全職員に書類を配布して窮してもらい、まとめている。評価を通して、コロナ禍での家族等との面会や外出制限の影響による利用者の機能低下やストレスを軽減するために、テラス・スロープでの面会やオンライン面会、請求書送付時に本人の写真を同封する、施設内イベントの回数を増やすなど、明確になった課題を解決するために、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の影響により通常開催1回その他は文章等での情報提供、要望・助言等の収集を行った。要望・助言等を玄関掲示板に掲示し、サービス向上に活かしている。	会議は2カ月に1回開催している。内5回は新型コロナウイルス感染予防対策の一環として文書で開催し、会議のメンバーに資料・報告書(事業所の活動や利用者の状況、ヒヤリハット・事故報告、災害対策の状況、外部評価の報告)を送付して、意見交換を行っている。要望や助言、議事録は事業所内に掲示し、何時でも閲覧できるようにしている。コロナ禍での面会や子育て中の職員の勤務体制など、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターの方や、疑問に思った事は市の職員に確認を取り運営している。特に運営推進会議はよりよい場とし協力関係構築に努めている。	市担当者とは、運営推進会議参加時や、普段から市の窓口に出向いたり、電話やメールで相談や助言を得るなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議参加時や直接出かけて情報交換をするなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束適正化検討会議を行っている。ヒヤリハット・事故報告書について話し合い、会議録を施設内研修時に報告を行い、意識統一を図っている。又、運営推進会議にて会議録にて報告している。	「身体拘束適正化のための指針」「高齢者虐待防止マニュアル」「身体拘束マニュアル」を整備し、内部研修で身体拘束について理解し、拘束をしないケアに努めている。3ヶ月に1回、身体拘束適正対策委員会を開催している。利用者が外に出たい時は寄り添い、職員と一緒に外出したり、家族の協力を得て、面会や外出を促すなど、利用者が閉塞感を持たないように配慮している。スピーチロックについては、職員協同や声かけ、休日・余暇の改善など6項目の目標を掲げて職員間で対応しているが、気になる場合は代表者や管理者が指導している。虐待リスク評価アンケートを実施し、介護計画にも反映させている。身体拘束0委員を決め検討している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの徹底と活用が出来ている。今現在の支援が第三者の視点として虐待に繋がる、見られてもおかしくないことをいつでも意見箱に入箱できる仕組みをとっている。改善の必要性がある場合は計画作成者に計画に盛り込む仕組みをとっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業と成年後見制度においては職員間の回覧で学んだ。昨年は活用者はいなかった。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、入居契約書を元に十分な説明と納得を得ている。利用者様、ご家族に不利益が被る事の無いよう十分に行えている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の相談・意向を踏まえた、施設サービス計画書とアセスメント要約表となっていて運営に反映させている。苦情の受付体制を重要事項説明書に明記している。玄関内に意見箱を設置している。	相談・苦情の受付体制、第三者委員、外部機関、処理手続きを明示して、契約時に家族に説明している。毎月の利用料支払いの来訪時や面会時、運営推進会議出席時、電話等で、家族の意見や要望を聞いている。意見箱を設置している。事業所より送付時には、利用者の生活状況を写真と添えて報告し、意見や要望が出やすい雰囲気づくりに努めている。家族からは、利用者の嗜好品や季節に合った服、母の日のプレゼントなどの相談はあるが、運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。家族からの意見や要望は、個人日誌に記録し、職員間で共有している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼、毎月10日の施設内研修にて皆さんで自由に発言できる場を設けて皆さんで考え反映している。職員からのイベント起案と実施を増やした。	代表者や管理者は、毎朝の朝礼や毎月の施設内研修、委員会活動を通して職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、日常業務の中で聞いている。人事考課制度を整備し、必要に応じて個人面談を行っている。今年度は利用者の外出の機会が減っていることから、職員によるイベント起案を増やし、様々なイベント企画を作成し、実施している。代表者や管理者は、職員の子育ての悩みや健康に関する相談に応じ、有給や希望休など勤務体制の変更など意見を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則内、キャリアアップ基準書、賃金表完備。自己評価・実勤務評価・資格取得評価・評価者評価による賞与支給。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年の様な外部研修参加が不可能だった。施設内研修毎月1回開催。職員を育てる為に通院を、ほぼ介護職員に行って頂いた。	外部研修は、職員に情報提供し、希望や段階に応じて勤務の一環として参加している。参加者は研修記録を作成すると共に施設内研修で報告し、資料は全職員が共有できるよう閲覧している。職員には、少なくとも、年1回は自己申請による外部研修に参加するよう働きかけており、老人福祉レクリエーション、福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(中堅職員コース、チームリーダーコース)、感染症対応、技能実習責任者更新研修、認知症疾患医療センター合同研修、介護報酬改定等に参加している。施設内研修は、年間計画を作成して、月1回開催し、新型コロナウイルス、身体拘束、高齢者虐待、避難訓練、排泄、外部研修の復命を実施している。事業所には、各委員会(行事、研修、誕生日会、展示物、事業所だより、クラブ活動、介護技術向上、虐待・身体拘束0、レクリエーション技術向上、排泄関係)を設け、委員会活動を通して職員の質の向上に努めている。新人研修は、主任と共に日々の業務を行い介護の知識や技術が学べるよう取り組んでいる。資格修得については、休みを優先的に取得できるよう配慮し、受講料等の経済的支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響により外部研修にて交流する事が出来なかった。理事長が同業者の運営推進委員となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまでに管理者(介護支援専門員)と主任が利用者さんと面談し要望・不安を事前に取り除いている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族による事前見学にて不安や要望等も聞き契約の段階でしっかりと信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事の相談、グループホームで行える事、介護保険制度のしくみを説明し、ケアマネージャーと連携をとり速やかに対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し・たたみ、料理の下ごしらえ等、協働して出来る機会を設けている。(基本、毎週金曜日の昼食はカレーで、下ごしらえを行って頂いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の要望・家族への要望等、アセスメント要約表又は連絡にて協力を得ている。かかりつけ医以外の受診は家族に協力を得ている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年の様な関係継続の支援が行えなかった。面会・外出規制の中、突発的な面会は1号館テラスにて短時間面会を実施した。	コロナ禍における面会制限を実施している中、家族とは、短時間での面会やオンライン面会などを工夫をしている他、年賀状や手紙、電話や携帯電話での交流を支援している。家族の協力を得ての通院や行きつけの美容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル・ソファ・テレビの位置にて環境の工夫を行っている。時に関わりを深める為に、職員が間に入り、支え合いの支援を行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居届にて、退居されても相談や支援に繋げる事を記載している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝の朝礼にて入居者さんの意向、希望、思い等があれば皆で検討し把握に努めている。日常の会話、表情、動き等から本人の想いをくみとり、アセスメントを活用し介護計画に盛り組んでいる。私の気持ちシートを活用している。	入居時には、本人や家族から生活歴を聞き取り、フェイスシートやセンター方式の「私の姿と気持ちシート」を活用している他、毎朝の朝礼時に思いを聞く他、日々の関りの中で把握した利用者の思いや意向は個人日誌に記録し、全職員で共有している。把握が困難な場合は、家族から聞き取り、職員間で話し合って、利用者の思いに沿った支援をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者さんに少しでも早く新しい環境に慣れていただく為と事例が困難になって対応する事のないように入居の際、ご家族から得た情報をフェイスシート、サマリー等で職員間で情報の共有を行っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響により日に2度のバイタルチェックを行い記録している。状態変化時は主治医と相談し、申し送り帳を通じ、朝礼時や施設内研修時にて把握・検討している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が、本人・家族の要望・支援経過を集約しモニタリングに参加している。そこで、介護支援専門員、サービス作成担当者と意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成している。	利用者の担当職員と計画作成担当者を中心に、随時カンファレンスを行い、本人や家族の思いや意向、医師、看護師、管理者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングと見直しを行い、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過を、個人記録・申し送り帳に記載し、情報の共有を行っている。担当職員が、本人・家族の要望・支援経過を集約しモニタリングに参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響による面会・外出規制もあり、家族の要望により在宅で暮らしたい方への要望に応えた。居宅ケアマネと協議、退居、在宅サービス利用に繋がった。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年の様な地域資源との協働は出来なかった。そのような中、安全で豊かな暮らしを楽しむ為に、可能な限り出勤者数を増やし、イベント開催を行った。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との協力依頼協定書を玄関内に掲示。介護支援専門員と服薬管理担当者にて関係の構築と継続に努めている。職員を育てる為、ほぼ通院は介護職員に行ってもらった。	本人、家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、月1回の受診の他、必要時には往診がある。他科受診は、家族の協力得て支援している。受診時には、口頭で必要な情報提供を行い、受診結果は家族から聞き、個人日誌に記録している。事業所で受診を支援した場合は、家族へ電話や請求書送付時に結果を報告している。健康管理は看護師である管理者が行っている。夜間や緊急時は、「ケアチェックシート」を基に管理者を通して医療機関と連携して、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の朝礼時、身体変化時等、常に看護師の指示を受けるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院のケースワーカーさん看護師さんと連絡を密に行い、面会しては状態、状況把握に努めている。遠方の家族の場合、家族の役割も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望が有れば、看取りを行っている。重度化、終末期等かかりつけ医との情報共有、家族の要望を踏まえ、状態に応じた緊急時の説明と同意を得ている。	契約時に、事業所ができる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から、本人や家族の意向を聞いて、主治医や看護師、関係者と話し合っ方針を決め、共有して、他施設や医療機関への移設も含めて支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	身体拘束等適正化対策検討会議にてヒヤリハット事故報告検討を行って事故防止に努めている。新型コロナウイルス感染症の影響により、定期避難訓練外、消防署職員来荘による応急手当や初期対応の訓練は実施出来なかった。	事例が発生した場合には、その場に居た職員が「事故・けが・ヒヤリハット・苦情・要望報告書」に原因や対応、予防策を記録して、回覧すると共に、他の職員には、朝礼で報告している。その後は、各ユニットの主任を中心に今後の対応、再発防止について検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。コロナ禍で救命講習への参加や訓練は実施できなかったが、身体拘束適正化委員会やリスクマネジメント委員会で検討し、目標達成計画に沿って、マニュアルの見直しなど施設マニュアルの必要性の理解と把握に努めている。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災年2回避難訓練実施。地域の協力体制として、地域消防団員有志者との協力体制を築いた。	事業所として年2回、日中想定地震時の対応と夜間を想定した火災訓練を実施し、通報訓練、避難訓練、消火訓練、避難経路の確認等を利用者も参加して行っている。目標達成計画に沿って、自治会長への緊急要請連絡網として、地域の消防団員有志5名の参加を得ているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。 災害時に備え、水や食料を備蓄し、生活用品、介護用品、救急用具、日用品、消耗品などを準備している。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状態に応じ、言葉掛けを工夫し、思いや意向の把握に努めている。倫理綱領内記載、玄関掲示。身体拘束・虐待防止指針マニュアル完備。	事業所独自の倫理要綱を玄関に掲示している他、個人情報保護に関する関係法令を職員に回覧して周知している。職員は、身体拘束適正対策委員会で学習し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応については、職員間で注意し、気になる場合は管理者が指導している。個人記録の保管や取扱いにも注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話、レクリエーション等を通じ自己決定や希望等を引き出して聞いている。自己の感情が出やすいように、信頼し合える人間関係作りを行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の心のゆとりが他の人のペースに合わせることが出来たり、事故防止・チームワーク形成に繋がる事を常に念頭においている。その人らしい日々の過ごし方を大切にし、私情をはさまない支援を提供している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんに対する身だしなみへの関心、興味が無くならないよう気をつけ褒める声かけを行い、衛生、健康、身だしなみ、季節に応じた洋服、着替えの少ない方は家族に連絡している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の活用と参加が出来なかった。毎週金曜日のカレーにて準備を手伝って頂き、毎食後のお盆拭き、テーブル拭き等行っており、旬の野菜、山菜を皆さんに紹介し、下ごしらえを手伝っていただき副菜の一品に添えたりしている。	食事は、昼食と夕食の副菜は配食を利用し、主食と汁物・朝食は、事業所で調理している。プランターで栽培した旬の野菜を使って、一品を加えている。利用者は、皮むきなど野菜の下ごしらえ、盛り付け、盆拭き、テーブル拭き、下膳などを職員と一緒にやっている。利用者の状態により、ミキサー食や刻みなど食事の形態にも工夫している。毎週金曜日の昼食は、「カレーの日」として、利用者と一緒に調理をしている。時には、買い物へ出かけ好きなお菓子やラムネなどのおやつを購入している。季節の行事食(年越しそば、おせち、恵方巻、ちらし寿司、いなり寿司、ソーメン、炊き込みご飯)、おやつづくり(たい焼き、ホットケーキ、ぜんざい、ケーキ、やきそば、ドーナツ、かき氷)、誕生日のケーキづくり、夏祭り、お菓子くじなど、食べることの楽しみ支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた量、形状を提供している。状態に合わせて飲み込みの悪い方には、刻み食、水分にはトロミをつけ、出来るだけ自力で摂取して頂き、残量介助を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の30分後、利用者さんに声をかけ働きかけをし、出来ない所はしっかりと介助し清潔を保持している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記入し排泄パターンを知り、声かけ・誘導・状態に応じたパット使用等を話し合い柔軟に対応している。	職員は、排泄表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた言葉かけやトイレへの誘導をして、排泄自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	動かない生活ではなく、一人一人にあった、お手伝いや体操・レクリエーション・個々の機能訓練にて予防とし野菜を多く献立に工夫して頂き、散歩ができる方は庭を積極的に歩いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	行事などの都合もあるが、基本は午前中に入浴して頂いている。強要はせず他の方と変更・入浴回数増するなど柔軟に行っている。希望に応じ足浴も行っている。	入浴は、毎日、10時から11時30分、13時30分から16時まで可能で、午前中を基本としているが、利用者の体調や希望に合わせてゆったりと入浴できるよう支援している。利用者の状態に合わせて、清拭、足浴、シャワー浴を行っている。入浴したくない利用者へは無理強いしないで、声かけや職員の交代、時間の変更し個々に応じて対応している。ゆず湯や入浴剤を使用して、入浴を楽しむ工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠して頂くために日中に適度なレクリエーションを行っている。昼夜逆転にならない範囲で休息をとっていただいている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	左記の項詳細を目的に、服薬管理担当者による在庫確認、定期通院を行っている。(担当者は毎年度変更)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年と同じ様な外出活動が実施出来なかった。花壇と畑に苗を植えたり、嗜好品を家族にお願いしたり職員が代替購入した。可能な限り出勤者数を増やし、イベント開催を行っている。	テレビやDVD、ユーチューブの視聴、本や雑誌・週刊誌・新聞を読む、日記をつける、ぬり絵、折紙、脳トレ(計算、漢字、四字熟語、まちがい探し)、なぞなぞ、しりとり、五目並べ、かるた、神経衰弱、手作りのワニワニパニック、歌を歌う、カラオケ、風船バレー、ボール遊び、棒サッカー、輪投げ、パットゴルフ、銭太鼓、ドッジボール、ラジオ体操、口腔体操、しゃつきり体操、クイズ、ゲーム(旗揚げ、牛乳パックすくい、新聞引っ張り)、プランターでの野菜づくり(トマト、きゅうり、ピーマン)、花壇への花植え、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、掃除(モップでの床拭き、玄関の掃き掃除)、プランターの野菜の世話(苗植え、水やり、収穫)、保存食づくり(梅干し、干し柿)、新聞紙のゴミ箱づくり、おやつづくり、季節の行事食や食事の準備や後片付け、施設内での運動会や大会(バレーボール、棒サッカー、ビンゴ、じゃんけん、早口言葉、缶積み)、季節の行事(七夕、夏祭り、敬老会、ハロウィン、クリスマス、門松づくり、正月、節分、ひな祭り)、金魚すくい、誕生会、卒園児の来訪、椎茸の菌打ちなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり利用者が喜びや張り合いのある生活を送れるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年と同じ様な外出活動が実施出来なかった。毎日の利用者自らの敷地内散歩、職員提案、利用者選択による施設外散歩を実施した。	周辺の散歩や外気浴、日光浴、小学校周辺の散歩、季節の花見(桜、バラ、紫陽花、コスモス)、近隣市内へのドライブ、買物、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用など、コロナ禍ではあるが、利用者の希望に沿ってできる限り外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金の所持は認めていない。新型コロナウイルス感染症の影響により、今までの買い物支援が出来なかった。嗜好品を家族にお願いしたり職員が代替購入した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末にはご家族へ年賀状を書いて頂き、中には携帯電話を自分で持たれている方もいらっしゃる。不穏時、可能な方は家族に連絡し、会話して頂いている。施設携帯電話にてLINEテレビ電話実施中。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くことの無いような十分なスペース構造となっている。時には、季節の花を飾り季節感を採りいれている。	玄関は、感染防止の対策として非接触検温器などを設置しており、季節の花やアマビエ人形を飾っている。リビングの前には広いウッドデッキがあり、野鳥の餌台や鉢植えが置いてあり、田園風景と共に季節を感じることができる。室内には、広いテーブルやイス、ソファがゆったりと置いてあり、テーブルには季節の花を飾っている。キッチンからは、食事の準備の音や匂いがして家庭的な雰囲気を感じることができる。天井も大きな木材の梁で広々としており、広い廊下には大型テレビをおいて、利用者は各ユニットを自由に行き来して交流したり、レクリエーションの場となっている。快適な室温や湿度、換気にも配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの活用、テーブルの分割や席の工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある写真や物、寝具などの思い出のある物。あるいは使い慣れた物を持参して頂いている。出来る方については、一緒に掃除を行っている。	衣装ケース、整理ダンス、小机、椅子、時計、テレビ、化粧用品、造花、本、雑誌など使い慣れたものや好みの物を持ち込み、部屋にあるホワイトボードには家族の写真や手紙、誕生日カード、色紙、カレンダーなどを飾って居心地良く暮らせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがあり、共用空間の位置がわかりやすいように各居室に表札を取り付けている。混合の可能性のあるもの及び、衣装ケースには種類別の名前を記入したり貼っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム おかでら荘

作成日: 令和 3 年 11 月 11 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	○事故防止の取り組みや事故発生の備え 全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続	①消防署員の指導訓練の継続実施 ②個々の知識の習得と向上	①3月施設内研修時に消防署員に来荘して頂き、応急手当、初期対応訓練の指導をお願いする。 ②8月に「緊急時の対応に関する研修」をEcar elaboで、個々が知識の習得を行う。	1年
2	36	○災害対策 地域との協力体制の構築	①地域住民の、おかでら荘避難訓練への参加 ②地域住民への連絡体制構築	①おかでら荘だより地域回覧の際、年度内計画に地域の方へ、避難訓練参加へのお願いとお誘いを行う。 ②当法人理事の方に地域住民への連絡体制の主幹となって頂く。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。